

一節 利十三 五節 五節 十 六節 利十三 五節 十 七節 利十三 五節 十 八節 利十三 五節 十 九節 利十三 五節 十 十節 利十三 五節 十 十一節 利十三 五節 十 十二節 利十三 五節 十 十三節 利十三 五節 十 十四節 利十三 五節 十 十五節 利十三 五節 十 十六節 利十三 五節 十 十七節 利十三 五節 十 十八節 利十三 五節 十 十九節 利十三 五節 十 二十節 利十三 五節 十 二十一節 利十三 五節 十 二十二節 利十三 五節 十 二十三節 利十三 五節 十 二十四節 利十三 五節 十 二十五節 利十三 五節 十 二十六節 利十三 五節 十 二十七節 利十三 五節 十 二十八節 利十三 五節 十 二十九節 利十三 五節 十 三十節 利十三 五節 十 三十一節 利十三 五節 十 三十二節 利十三 五節 十 三十三節 利十三 五節 十 三十四節 利十三 五節 十 三十五節 利十三 五節 十 三十六節 利十三 五節 十 三十七節 利十三 五節 十 三十八節 利十三 五節 十 三十九節 利十三 五節 十 四十節 利十三 五節 十 四十一節 利十三 五節 十 四十二節 利十三 五節 十 四十三節 利十三 五節 十 四十四節 利十三 五節 十 四十五節 利十三 五節 十 四十六節 利十三 五節 十 四十七節 利十三 五節 十 四十八節 利十三 五節 十 四十九節 利十三 五節 十 五十節 利十三 五節 十

なく且罪の人即ち論亡の子現る事あり其日きたらじ
 一 かし凡て神と稱する者また人の拜む所の者も敬
 二 之より起て已を尊くし神の殿に坐して自ら神なりと爲に至る わる爾曹の中お在しとき此事を語りて
 三 爾曹記憶せざる乎 彼をして其時お至りて現れしめん爲お今かきを抑る者を爾曹云る うれ不法の隠た
 四 る者すでお働けり今これを抑るもの除るよまで隠せり 其時お至りて不法の者おらるべし主イエス其
 五 口の氣を以て彼を滅びん其處るどき爾曹所の榮光を以て彼を辱はん 彼サマソの行爲を循ひて各様の偽
 六 かる能と徴と奇蹟 かつ不義の諸の詭論を以て騙れかの論亡者の中お在なり蓋かれら眞理を愛するの
 七 愛を受ずして救を得ざる者なれば也 是故お神かれら 誰を信せん爲お迷惑せしめて彼等の中お働かしむ
 八 此 凡て眞理を信せず不義を好む者の罪を定んとて也 主に愛せらるる兄弟よ爾曹の爲お我爾曹常に
 九 神に謝すべき地ろの神始より爾曹を眞が眞理を信することとて靈の聖を蒙るべしお因て救を得しめ給へん
 十 也 神われらの福音を以て爾曹を此福音を以て爾曹をして我爾曹の主イエスキリストの榮光を得しめ
 十一 九爲なり 是故お兄弟よ爾曹堅く立かつて我爾曹の言を以て我爾曹の書お因て教を受たる傳を堅く守る
 十二 べし 願く我爾曹の主イエスキリスト及び我爾曹の父の神すなわち我爾曹を愛し且恩に因て永遠の安恩と善
 十三 望を予る者 爾曹の心を慰め凡の善行と善言を爾曹を堅固せんことを
 十四 終わ我れこれを言兄弟よ爾曹われらの爲お祈り主の道をして疾ひらまり榮を受ること爾曹の中
 十五 如ならしめ 又我爾曹をして邪なる惡人より救ることを得しめよろの人はみな信する者といふお非ざれど
 十六 也 然て主人の信償ある者なり彼なんぢらを堅くし爾曹を護てかの惡人より救ん 爾曹われらの命する事
 十七 今すでお行後またわ之を行せんことを主に頼て信する也 願くは主なんぢらの心を神の愛とキリスト

一節 利十三 五節 十 二節 利十三 五節 十 三節 利十三 五節 十 四節 利十三 五節 十 五節 利十三 五節 十 六節 利十三 五節 十 七節 利十三 五節 十 八節 利十三 五節 十 九節 利十三 五節 十 十節 利十三 五節 十 十一節 利十三 五節 十 十二節 利十三 五節 十 十三節 利十三 五節 十 十四節 利十三 五節 十 十五節 利十三 五節 十 十六節 利十三 五節 十 十七節 利十三 五節 十 十八節 利十三 五節 十 十九節 利十三 五節 十 二十節 利十三 五節 十 二十一節 利十三 五節 十 二十二節 利十三 五節 十 二十三節 利十三 五節 十 二十四節 利十三 五節 十 二十五節 利十三 五節 十 二十六節 利十三 五節 十 二十七節 利十三 五節 十 二十八節 利十三 五節 十 二十九節 利十三 五節 十 三十節 利十三 五節 十 三十一節 利十三 五節 十 三十二節 利十三 五節 十 三十三節 利十三 五節 十 三十四節 利十三 五節 十 三十五節 利十三 五節 十 三十六節 利十三 五節 十 三十七節 利十三 五節 十 三十八節 利十三 五節 十 三十九節 利十三 五節 十 四十節 利十三 五節 十 四十一節 利十三 五節 十 四十二節 利十三 五節 十 四十三節 利十三 五節 十 四十四節 利十三 五節 十 四十五節 利十三 五節 十 四十六節 利十三 五節 十 四十七節 利十三 五節 十 四十八節 利十三 五節 十 四十九節 利十三 五節 十 五十節 利十三 五節 十

六 忍耐に導き給んことを 兄弟よ我爾曹主イエスキリストの名お記て爾曹に命す我爾曹より受たる傳を循
 七 之として安んじ諸の兄弟お遠かるべし 爾曹かつから如何して我爾曹を效ふべきを知らず我爾曹なんぢら
 八 の中に在て安なる事を行す また人のパンを價おしに食することなく唯人を累せざらん爲に勞と苦を
 九 して晝夜工を作り 是れおまら權威おきつ故お非ずた 自己を權措とし爾曹をして傲しめん爲なり われ
 十 ら爾曹の中に在しとき人もし工を作ること欲すべし食すべからずと爾曹に命じたり 爾曹の中に工を
 十一 作すして専ら餘事を務め安んじし事を爲ふ者ありと我爾曹聞たり われら此の如き者に靜お工を作て已れ
 十二 べしを食せんことを我爾曹の主イエスキリストお記て命じ且勸む 兄弟よ善を行ひて倦ること勿き 若この書
 十三 お云る我爾曹の言お從へざる者おらば之を愧しめん爲に其人を録して相交ること勿き 然て彼を敵とせず
 十四 兄弟の如く之を讀むべし 願くは平安の主おねお何事お拘り爾曹に平安を賜んことを願くは主爾曹と信
 十五 在んことを 我ハ手づから筆を執て安んじと云書ごどに之を以て語す我の書るは此の如し 願く
 十六 我爾曹の主イエスキリストの恩すべし爾曹と信お在んことをアミン

新約全書帖撒羅尼迦後書終

イ 提摩太前書 一 章 一 節 一
ロ 一 節 二 節 三 節 四 節 五 節 六 節 七 節 八 節 九 節 十 節 十一 節 十二 節 十三 節 十四 節 十五 節 十六 節 十七 節 十八 節 十九 節 二十 節 二十一 節 二十二 節 二十三 節 二十四 節 二十五 節 二十六 節 二十七 節 二十八 節 二十九 節 三十 節 三十一 節 三十二 節 三十三 節 三十四 節 三十五 節 三十六 節 三十七 節 三十八 節 三十九 節 四十 節 四十一 節 四十二 節 四十三 節 四十四 節 四十五 節 四十六 節 四十七 節 四十八 節 四十九 節 五十 節 五十一 節 五十二 節 五十三 節 五十四 節 五十五 節 五十六 節 五十七 節 五十八 節 五十九 節 六十 節 六十一 節 六十二 節 六十三 節 六十四 節 六十五 節 六十六 節 六十七 節 六十八 節 六十九 節 七十 節 七十一 節 七十二 節 七十三 節 七十四 節 七十五 節 七十六 節 七十七 節 七十八 節 七十九 節 八十 節 八十一 節 八十二 節 八十三 節 八十四 節 八十五 節 八十六 節 八十七 節 八十八 節 八十九 節 九十 節 九十一 節 九十二 節 九十三 節 九十四 節 九十五 節 九十六 節 九十七 節 九十八 節 九十九 節 一百 節 一百一 節 一百二 節 一百三 節 一百四 節 一百五 節 一百六 節 一百七 節 一百八 節 一百九 節 二百 節 二百一 節 二百二 節 二百三 節 二百四 節 二百五 節 二百六 節 二百七 節 二百八 節 二百九 節 三百 節 三百一 節 三百二 節 三百三 節 三百四 節 三百五 節 三百六 節 三百七 節 三百八 節 三百九 節 四百 節 四百一 節 四百二 節 四百三 節 四百四 節 四百五 節 四百六 節 四百七 節 四百八 節 四百九 節 五百 節 五百一 節 五百二 節 五百三 節 五百四 節 五百五 節 五百六 節 五百七 節 五百八 節 五百九 節 六百 節 六百一 節 六百二 節 六百三 節 六百四 節 六百五 節 六百六 節 六百七 節 六百八 節 六百九 節 七百 節 七百一 節 七百二 節 七百三 節 七百四 節 七百五 節 七百六 節 七百七 節 七百八 節 七百九 節 八百 節 八百一 節 八百二 節 八百三 節 八百四 節 八百五 節 八百六 節 八百七 節 八百八 節 八百九 節 九百 節 九百一 節 九百二 節 九百三 節 九百四 節 九百五 節 九百六 節 九百七 節 九百八 節 九百九 節 一千 節 一千一 節 一千二 節 一千三 節 一千四 節 一千五 節 一千六 節 一千七 節 一千八 節 一千九 節 二千 節 二千一 節 二千二 節 二千三 節 二千四 節 二千五 節 二千六 節 二千七 節 二千八 節 二千九 節 三千 節 三千一 節 三千二 節 三千三 節 三千四 節 三千五 節 三千六 節 三千七 節 三千八 節 三千九 節 四千 節 四千一 節 四千二 節 四千三 節 四千四 節 四千五 節 四千六 節 四千七 節 四千八 節 四千九 節 五千 節 五千一 節 五千二 節 五千三 節 五千四 節 五千五 節 五千六 節 五千七 節 五千八 節 五千九 節 六千 節 六千一 節 六千二 節 六千三 節 六千四 節 六千五 節 六千六 節 六千七 節 六千八 節 六千九 節 七千 節 七千一 節 七千二 節 七千三 節 七千四 節 七千五 節 七千六 節 七千七 節 七千八 節 七千九 節 八千 節 八千一 節 八千二 節 八千三 節 八千四 節 八千五 節 八千六 節 八千七 節 八千八 節 八千九 節 九千 節 九千一 節 九千二 節 九千三 節 九千四 節 九千五 節 九千六 節 九千七 節 九千八 節 九千九 節 一万 節 一万一 節 一万二 節 一万三 節 一万四 節 一万五 節 一万六 節 一万七 節 一万八 節 一万九 節 二万 節 二万一 節 二万二 節 二万三 節 二万四 節 二万五 節 二万六 節 二万七 節 二万八 節 二万九 節 三万 節 三万一 節 三万二 節 三万三 節 三万四 節 三万五 節 三万六 節 三万七 節 三万八 節 三万九 節 四万 節 四万一 節 四万二 節 四万三 節 四万四 節 四万五 節 四万六 節 四万七 節 四万八 節 四万九 節 五万 節 五万一 節 五万二 節 五万三 節 五万四 節 五万五 節 五万六 節 五万七 節 五万八 節 五万九 節 六万 節 六万一 節 六万二 節 六万三 節 六万四 節 六万五 節 六万六 節 六万七 節 六万八 節 六万九 節 七万 節 七万一 節 七万二 節 七万三 節 七万四 節 七万五 節 七万六 節 七万七 節 七万八 節 七万九 節 八万 節 八万一 節 八万二 節 八万三 節 八万四 節 八万五 節 八万六 節 八万七 節 八万八 節 八万九 節 九万 節 九万一 節 九万二 節 九万三 節 九万四 節 九万五 節 九万六 節 九万七 節 九万八 節 九万九 節 十万 節 十一万 節 十二万 節 十三万 節 十四万 節 十五万 節 十六万 節 十七万 節 十八万 節 十九万 節 二十万 節 二十一万 節 二十二万 節 二十三万 節 二十四万 節 二十五万 節 二十六万 節 二十七万 節 二十八万 節 二十九万 節 三十万 節 三十一万 節 三十二万 節 三十三万 節 三十四万 節 三十五万 節 三十六万 節 三十七万 節 三十八万 節 三十九万 節 四十万 節 四十一万 節 四十二万 節 四十三万 節 四十四万 節 四十五万 節 四十六万 節 四十七万 節 四十八万 節 四十九万 節 五十万 節 五十一万 節 五十二万 節 五十三万 節 五十四万 節 五十五万 節 五十六万 節 五十七万 節 五十八万 節 五十九万 節 六十万 節 六十一万 節 六十二万 節 六十三万 節 六十四万 節 六十五万 節 六十六万 節 六十七万 節 六十八万 節 六十九万 節 七十万 節 七十一万 節 七十二万 節 七十三万 節 七十四万 節 七十五万 節 七十六万 節 七十七万 節 七十八万 節 七十九万 節 八十万 節 八十一万 節 八十二万 節 八十三万 節 八十四万 節 八十五万 節 八十六万 節 八十七万 節 八十八万 節 八十九万 節 九十万 節 九十一万 節 九十二万 節 九十三万 節 九十四万 節 九十五万 節 九十六万 節 九十七万 節 九十八万 節 九十九万 節 一百万 節

新約全書使徒パウロラモテに贈れる前書

我々の救主なる神および我々の望なるイエスキリストの命を遵ひてイエスキリストの使徒となれるパウロ 信仰お由て我が真子なるテモラ小書を贈る願くハ父なる神および我々の主キリストイエスより恩寵と矜恤と平康を受よ ○我々キリストニヤお往しどき爾に仍エペソに留り人お命じて彼處に異教を傳ることなく また信仰おある神の道を立すして辯論を生ずる奇 識と極りなき糸圖に心を寄ること勿らしめよと勸たり今も此の如く行んことを願ふ 誠命の主意ハ愛なり即ち懐き心と善良心と偽なき信仰より出 或人これに乗て虚き論を轉り 律法の教師と爲んとし却て其語る所の定論とこの事を自ら知す 夫われら 律法ハ善もの也と知る但し理に従ひて律法を用へし 律法ハ義人の爲に設たるに非す不法なるもの不服なるもの不敬なるもの罪惡なるもの邪僻なるもの父を殺せるもの母を殺せるもの人を殺せる者 奸淫を行ふもの男色を好むもの人を擡むもの讒を言もの偽誓入者また此は加正 理に悖ること有が爲に設たり これ我に記し給ふ所の福ある神の榮の福音を循へる也 ○我に能かを賜へる我々の主キリストイエスお謙す蓋われを職お任して忠信なる者となし給へバ也 主われ昔ハ謗議たるもの答迫たるもの狹侮たる者なりしが我信せざるべき知すして之を行へる故になは矜恤を受たり 我々の主の恩およびキリストイエスに在て存つ所の我々の信仰と愛ハ極て大かなれり キリストイエスハ罪人を救んため世に臨れり言すべく亦疑えずして納べき語なり罪人のうち我ハ首なり 然ども我が矜恤を受しハキリストイエス首先に我ハ寛容を悉く顯し後かれを信して永生を受る者の我を機構となし給へる也 願くハ萬世の王すなとも朽す見ざる一の神お窮なく尊貴と榮光あらんことをアミメン ○

キヤ 提摩太前書 三十四章 一節
 エ 提摩太前書 三十三章 一節
 ミ 提摩太前書 三十二章 一節
 シ 提摩太前書 三十一章 一節
 ス 提摩太前書 三十章 一節
 セ 提摩太前書 二十九章 一節
 ソ 提摩太前書 二十八章 一節
 タ 提摩太前書 二十七章 一節
 チ 提摩太前書 二十六章 一節
 ツ 提摩太前書 二十五章 一節
 テ 提摩太前書 二十四章 一節
 ト 提摩太前書 二十三章 一節
 ナ 提摩太前書 二十二章 一節
 ニ 提摩太前書 二十一章 一節
 ノ 提摩太前書 二十章 一節
 ハ 提摩太前書 十九章 一節
 ヒ 提摩太前書 十八章 一節
 フ 提摩太前書 十七章 一節
 ブ 提摩太前書 十六章 一節
 ベ 提摩太前書 十五章 一節
 ペ 提摩太前書 十四章 一節
 ポ 提摩太前書 十三章 一節
 マ 提摩太前書 十二章 一節
 ミヤ 提摩太前書 十一章 一節
 ミヨ 提摩太前書 十章 一節
 ミメ 提摩太前書 九章 一節
 ミモ 提摩太前書 八章 一節
 ミム 提摩太前書 七章 一節
 ミミ 提摩太前書 六章 一節
 ミム 提摩太前書 五章 一節
 ミモ 提摩太前書 四章 一節
 ミメ 提摩太前書 三章 一節
 ミヨ 提摩太前書 二章 一節
 ミヤ 提摩太前書 一章 一節

我子テモト先に爾を指る所の預言に由て爾に命ず此預言により信仰と善良心をもて善戦を戦ふべし
 或人よ其良心を棄て信仰を亡へり此の如き人の中ニマノヨとアレキサンツカあり我かれらをサマツに
 付せり是彼等をして誘論を言さらしめん爲む徳なり
 われ殊に勸む萬人の爲に領告祈禱懇求感謝せよ王および凡て權威を有もの爲に別て之を
 行べし是われら敬虔と端莊を以て靜に安らかに日を度らん爲なり此の善事なり我儕の救主なる神の
 意旨に適ふこと也萬人救をうけ眞理を曉るに至る神の望み給人所なりうれし神の一位なり又神と
 人との間に一位の中保あり即ち人なるキリストイエスなりかれ萬人に代り己を棄て贖をなせり憐
 たらば許すべし我れが爲わが爲せられて宣傳する者となり使徒と作また信仰と眞理を異邦人に教ふる者とな
 り我キリストに在て眞をいひ証を言す是故に我れがム人深き手を擧て怒なく疑なく何の處にても祈
 んことをまた婦女の耻を知よく慎みて宜に合ふ衣にて自ら飾り髪を編てどく金と眞珠と價貴き衣を以
 て裝飾とせず善行を以て裝飾とせんことを願ふ神を敬ふ女に如此すべき事なり婦女に凡ての順ひ
 て静か道を學ぶべしわれ婦女を教へしとく男の上に權を執てどを許さず婦女に只安靜にすべし蓋
 フザハの前に造られエマハ後に造られたれば也アザハの感ざれざりしなり婦に感ざれて罪に陥れり
 然ども彼も信仰と愛と謙と謹に居ならば子を生て居ることにて因て救を得べし
 人もし監督の職を欲はし是善務を欲ふ也といふ語に誠なりうれし監督たる者責べき所なく
 個の婦の夫なるべく謹慎自ら制し品行正しく旅客を殷勤に待ひ教訓をなし酒を嗜まざる人撃つ柔かな
 争ふ事財を食らさず自己の家を善理め端莊を以て其子女を服せしむ可也人もし自己の家を理ることを

ヨナ 提摩太前書 三十四章 一節
 ヨナ 提摩太前書 三十三章 一節
 ヨナ 提摩太前書 三十二章 一節
 ヨナ 提摩太前書 三十一章 一節
 ヨナ 提摩太前書 三十章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十九章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十八章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十七章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十六章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十五章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十四章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十三章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十二章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十一章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二十章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十九章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十八章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十七章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十六章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十五章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十四章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十三章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十二章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十一章 一節
 ヨナ 提摩太前書 十章 一節
 ヨナ 提摩太前書 九章 一節
 ヨナ 提摩太前書 八章 一節
 ヨナ 提摩太前書 七章 一節
 ヨナ 提摩太前書 六章 一節
 ヨナ 提摩太前書 五章 一節
 ヨナ 提摩太前書 四章 一節
 ヨナ 提摩太前書 三章 一節
 ヨナ 提摩太前書 二章 一節
 ヨナ 提摩太前書 一章 一節

知ずバ如何して神の教會を管ることを得んやかつ新に教に入し者を監督と爲べからず恐れを驅りて惡
 魔と罪に陥らんまた監督は外人にも令開るべし恐れを驅りて惡魔の害を隔らん
 も亦端莊くし兩舌せず酒を嗜まず利を貪らさ信仰の奧義を深き良心の中に存し此を先試みて責
 び所なくバ執事の職に當べし女執事も亦端莊くし人を誨らしむこと忠信なるべし執事たる
 者一個の婦の夫なるべし子女己の家を善理むべし善執事の職を務る者己に嘉敏を得キリスト
 エキに基せし信仰に勇氣を得べしわれ速く爾に至らんことを望む然ど如此かき贈るべし我もし運ら
 んどき爾如何して神の家の中に行ふべきかを知ん爲なり神の家内諸神の教會なり眞理の柱と基なり教の
 奧義の大なること更に疑ふ所なし神肉體となりて顯れ靈に因て義とせられ天使に見れ異邦人の中に
 宣傳へられ世の人に信せられ榮光の中に擧られ給へり
 然ども靈明かにいふ後に至らば或人信仰の道より離れて人を感ず惡鬼の教に心を寄ん善
 を假て誑をいひ眞心を烙れ聚ることを禁し食を斷て人を命する者に誘はるるに因てなり食り即ち神これ
 を造り信じて眞理を知る人に感謝して受むるもの也うれし神の造りし物みな美なり感謝して受ると
 さり棄べき物なしうれし神の言と祈禱も由て潔なれ心也爾もし之を兄弟等に教るとさハキリストイエ
 スの眞役者むして信仰の道と爾が從ひし所の善教の道に背之れたる者なり妄なる談と老たる婦の奇き
 談をすて神を敬ふことを自ら修行すべし肉體の修行は益すくなく惟神を敬ふこと凡の事に益あり今
 生および來生に係る約束を得なりこれ信すべく又願ふことと爲に我儕勞苦をし且
 誨し諍をうく蓋われら活る神を望むなり後り萬人の救主にして殊に信する者の救主なりなんが此等の事

を命じて且教ふべし。〇 ならんか年姪を以て人に輕んぜらるゝ勿れ言と行と愛と信と謙とを以て信者の模範となるべし。 ならんか誦讀と勸勉と教訓を務めて我が至るを待 預言と長老會の被手禮とに由て爾を賜ひし所の賜を忽辱するに勿れ 心を之に寄て専ら之を務むべし蓋んかの上達するに人に明かならん爲なり。 ならんか己を慎み亦教ふべし恒に此等の事を務めよ如此おてなふ時己を救ひ亦ならんかに聽者を救えん

節四 老人を責るゝこと勿れ之を父の如く幼者を兄弟の如くして老たる婦を母の如くして勸また少女を姪の如く之を勸るに貞潔を盡すべし。 實婦なる眞の寡を敬ふべし。 然る姪婦子あるひに孫あるひに彼等まづ己の家に孝を行ひ其親に恩を報ること學ぶべし是神の旨に遵ふこと也。 眞の寡婦にて獨居もの惟神に倚頼み夜も晝も飢求と祈禱を恒にする也。 經樂をなす寡婦に生ると雖も死者なり。 ならんか此事を命じて彼等をして責べき所ならんか云ひべし。 人もし己に屬する者を顧みず殊に己の家族を顧みざるなり。 且信例の道に背き不信者よりも劣れる者なり。 實婦を其籍を毀すに六十歳より少かる可らず。 素より一個の夫の妻なりし者にして善行の稱ある者もしくは子女を育しもの若くは旅客を節したる者もしくは聖徒の足を濯たる者もしくは難人を助けしもの若くは事務の善事に従ひし者なればし。 少き寡婦己之を辭るべし蓋んかキリストに背て心を亂すと云ひ再び嫁せんとすれば也。 彼等が初に立たる約束を棄るに因て罪を犯らるべし。 彼等また懶惰に習ひ人の家を周遊た。 懶惰なる耳ならず安ん人への風評をひ知て人の事に關り言べからざる事をひふ也。 是故に我れが少き寡婦に嫁をなし子女をうみ家を理て敬する者に儼しても謙るべき機を得しめざらんことをう。 彼等のうち既に道を棄てキリストに従へ

一節九〇三
二節九〇四
三節九〇五
四節九〇六
五節九〇七
六節九〇八
七節九〇九
八節九一〇
九節九一一
一〇節九一二
一一節九一三
一二節九一四
一三節九一五
一四節九一六
一五節九一七
一六節九一八
一七節九一九
一八節九二〇
一九節九二一
二〇節九二二
二一節九二三
二二節九二四
二三節九二五
二四節九二六
二五節九二七
二六節九二八
二七節九二九
二八節九三〇
二九節九三一
三〇節九三二

者あり 信する男あるひに信する女の家に若し寡婦あるひに之を助べし教會を煩とす可らず蓋教會をして眞の寡者を助しめん爲なり。 善治る長老を倍して之を尊み言を傳へ教をなして勝する長老を殊に尊むべし。 〇 聖書に録して勸る物とて鞭すやに口籠を掛べからず。 又學者其値を受べき也。 云をなり。 長老を辭る者ならんに二三人の證人なくば納べからず。 罪を犯せる者。 人衆の前にて之を警むべし是餘の人をして懼まめん爲なり。 〇 凡そ神とキリストとを敬ふに選ばれたる天使の前にて爾に求む預見の定めなすことなく少くも偏りて行ふこと無して此等の事を守るべし。 輕易しく人に按手する勿き人の罪を干すこと勿れ自ら守て潔すべし。 爾の胃のため及び爾をん疾ふも因て恒も水を飲めど勿れ少し。 葡葡酒を用はずべし。 或人の罪に明かにして其人に先ちて審判の場にゆき或人の罪に後に従ふ。 此の如く善行も明かなるなり然るも亦終に隱るゝこと能はず

節二 凡そ爾の下にある僕に己の主を毎事に敬ふべき者となすべし。 是神の名と教を誦れざらん爲なり。 信者なる主を有る者。 其兄弟たるに因て之を輕んず可らず別て之に事ふべし蓋益を受もの信者をして愛せらるゝ者なれば也。 ならんか此事を教また勸むべし。 〇 異なる教を傳へ我儕の主イエスキリストの善言を神を敬ふに合ふ教を傳へざる者わらざ。 此人みづから驕り無知にして議論と言辭の争辨を好み此れを由て娼婦(争闘)與謗(妄疑)また邪にして眞理を離れ神を敬ひて利を得んと欲ん人への爭論ある也。 ならんか此の如き人に遠かるべし。 神を敬ひて足ることを知り大なる利なり。 われら何をも携へて世に來ら。 ず亦何をも携へて往て能ざる。 明かなり。 〇 うれ衣食わらば之をも足とすべし。 富んことを欲する者。 其思難と云え人々を滅亡に瀕ぼす所の愚にして害ある寡殊の愆も陷る。 かり。 財を慕ふ諸の悪事

一節九三六
二節九三七
三節九三八
四節九三九
五節九四〇
六節九四一
七節九四二
八節九四三
九節九四四
一〇節九四五
一一節九四六
一二節九四七
一三節九四八
一四節九四九
一五節九五〇
一六節九五〇
一七節九五二
一八節九五三
一九節九五四
二〇節九五五
二一節九五六
二二節九五七
二三節九五八
二四節五九九
二五節九六〇
二六節九六一
二七節九六二
二八節九六三
二九節九六四
三〇節九六五
三一節九六六
三二節九六七
三三節九六八
三四節九六九
三五節九七〇
三六節九七一
三七節九七二
三八節九七三
三九節九七四
四〇節九七五

の根なり或人これを慕ひ迷て信仰の道を離れ多の苦害をもて自ら己を刺り神の人よ之を避て義事と神を敬ふと云ふ信仰と愛と推忍と柔和とを慕ふべし信仰の善戦をたうかか永く生を取べし爾これが爲に召を蒙りたり又多の人の前にて善證を作たりわれ萬物をして生を存じむる神およびボツテオラトに向て善證を作給へるキリストイエスの前にて爾に命ずなんが我儕の主イエスキリストの現る時まで玷あき責むべき所なくして誠を守るべし神の定め給へる期いたらば彼を顧さん神人即ち福ある所の獨一の權威ある者諸の王の王もろくの主の主獨一死するもの近くてを得ざる光に在して人ひまた見しとてかく又見とて能ざる者亦かり願へる會真と猶なき權力かれに有アミメ○爾この世の當る者も命せよ騙ることをなく定なき財を情とてなく唯れを樂ませんさて諸物を豊か賜へ神を恃みまた善を行ひ善事に富をしみなく施濟をなして人と共にしして己の爲に善基を蓄へ未來の備をなすべし是眞の生を得ん爲なりとラモテ上爾託せられし事を守り妄なる益なき談および知識と偽り稱ふる辨論を避べし或人の偽の知識亦從ひて信仰を誤れり願へる電恩なんぢに在んことをアミメ

テロ二世三十一
テロ二世三十二
テロ二世三十三
テロ二世三十四
テロ二世三十五
テロ二世三十六
テロ二世三十七
テロ二世三十八
テロ二世三十九
テロ二世四十
テロ二世四十一
テロ二世四十二
テロ二世四十三
テロ二世四十四
テロ二世四十五
テロ二世四十六
テロ二世四十七
テロ二世四十八
テロ二世四十九
テロ二世五十
テロ二世五十一
テロ二世五十二
テロ二世五十三
テロ二世五十四
テロ二世五十五
テロ二世五十六
テロ二世五十七
テロ二世五十八
テロ二世五十九
テロ二世六十
テロ二世六十一
テロ二世六十二
テロ二世六十三
テロ二世六十四
テロ二世六十五
テロ二世六十六
テロ二世六十七
テロ二世六十八
テロ二世六十九
テロ二世七十
テロ二世七十一
テロ二世七十二
テロ二世七十三
テロ二世七十四
テロ二世七十五
テロ二世七十六
テロ二世七十七
テロ二世七十八
テロ二世七十九
テロ二世八十
テロ二世八十一
テロ二世八十二
テロ二世八十三
テロ二世八十四
テロ二世八十五
テロ二世八十六
テロ二世八十七
テロ二世八十八
テロ二世八十九
テロ二世九十
テロ二世九十一
テロ二世九十二
テロ二世九十三
テロ二世九十四
テロ二世九十五
テロ二世九十六
テロ二世九十七
テロ二世九十八
テロ二世九十九
テロ二世一百

新約全書使徒パウロラモテに贈れる後書
 二 神の旨に由てキリストイエスに在る命の約束を傳へ爲にキリストイエスの使徒となれるパウロ我が愛する子ラモテに書を贈る願へる父なる神および我儕の主キリストイエスより恩寵と矜恤と本康を受よわれ夜も晝も祈禱に斷ず爾を懐か因て我が先祖に效ひ潔き良心をもて事する神に謝す我ながらの涙を憶て爾を見んことを願ふ是歡喜を我に充しめん爲なり我んながの偽なき信仰を念ふ此の如き信仰前に爾の祖母ロイスマタ爾の母ニカにあり今爾にも在んことを信する也是故に我爾をして我が接手に由て爾が受し神の賜を復び憐にせんことを欲しむる神の我儕に賜へる靈の賜する靈に非ず能と愛と謹の靈なれ心也是故に爾我らの主の證を作せんとく其囚人なる我とを恥とせず勿れ惟神の能に循ひて福音の爲に我と共に苦を忍ぶべし我れ我儕を救ひ聖召を以て召給へり是れらに行は由に非ず惟神の旨と世の成さうし先よりキリストイエスの中我儕に賜ひし恩恵に由なりこの恩恵の今われらの救主イエスキリストの顯れ給ひしに由て顯れたりキリスト死を廢げし福音を以て生命と獲ざる事とを明著にせり我この福音の爲に立てられて宣傳する者となり使徒となり異邦人の師となり是故に我これらの苦に遇たり然れど之を恥とせず蓋われ我信する者を知かつ我かれに託したる者を彼かの日に至るまで守んことを爲得るを信すれ也爾キリストイエスにある信と愛とを以て先に我に聞し所の眞の言の模範を採つべし爾に託したる善ものを我儕の中に在る聖靈を以て守るべしアマテに在る者すべて我に背く是なんぢが知てころ地ノラゴロとヘルモグサも其中に在願へるハ主私櫃をオマシポロの家に賜へ蓋かれ履われを愚め且わが鍵を恥とせす其口々に在しと急ぎ尋て我を遇たり願へるハ主彼をして夫

テロ二世一
テロ二世二
テロ二世三
テロ二世四
テロ二世五
テロ二世六
テロ二世七
テロ二世八
テロ二世九
テロ二世十
テロ二世十一
テロ二世十二
テロ二世十三
テロ二世十四
テロ二世十五
テロ二世十六
テロ二世十七
テロ二世十八
テロ二世十九
テロ二世二十
テロ二世二十一
テロ二世二十二
テロ二世二十三
テロ二世二十四
テロ二世二十五
テロ二世二十六
テロ二世二十七
テロ二世二十八
テロ二世二十九
テロ二世三十
テロ二世三十一
テロ二世三十二
テロ二世三十三
テロ二世三十四
テロ二世三十五
テロ二世三十六
テロ二世三十七
テロ二世三十八
テロ二世三十九
テロ二世四十
テロ二世四十一
テロ二世四十二
テロ二世四十三
テロ二世四十四
テロ二世四十五
テロ二世四十六
テロ二世四十七
テロ二世四十八
テロ二世四十九
テロ二世五十
テロ二世五十一
テロ二世五十二
テロ二世五十三
テロ二世五十四
テロ二世五十五
テロ二世五十六
テロ二世五十七
テロ二世五十八
テロ二世五十九
テロ二世六十
テロ二世六十一
テロ二世六十二
テロ二世六十三
テロ二世六十四
テロ二世六十五
テロ二世六十六
テロ二世六十七
テロ二世六十八
テロ二世六十九
テロ二世七十
テロ二世七十一
テロ二世七十二
テロ二世七十三
テロ二世七十四
テロ二世七十五
テロ二世七十六
テロ二世七十七
テロ二世七十八
テロ二世七十九
テロ二世八十
テロ二世八十一
テロ二世八十二
テロ二世八十三
テロ二世八十四
テロ二世八十五
テロ二世八十六
テロ二世八十七
テロ二世八十八
テロ二世八十九
テロ二世九十
テロ二世九十一
テロ二世九十二
テロ二世九十三
テロ二世九十四
テロ二世九十五
テロ二世九十六
テロ二世九十七
テロ二世九十八
テロ二世九十九
テロ二世一百

の日に至り主の矜恤を得しめよ彼ユヰラが在て如何に我に事しか爾の善しむる所なり
 三 又なれども多くの證人の前にて我より聞し所の事を忠信にして能人を教るに足る人に記すべし 爾キリストイエスの精兵卒の如く我と共に苦を忍ぶべし 兵卒を務る者ハ世事を以て自己を累せしむる者ハ心は傲させんと爲さなり 五 もし力を角公
 もの法に遵ひて角之をバ冕を得ず 勸勞たる百姓をバ冕を得べき也 爾わが言し所を思ふべし主爾に眞事を曉しめん
 ハザビラの裔より出たるイエスキリスト我が傳る所の福音の如く死より甦りたるを爾心に記べし
 この福音の爲に我苦を蒙て罪人の如く懲らるゝに至れり然れども神の道ハ棄れず 是故我選ぜし者の爲に凡の事を恐て甚れ等にもキリストイエスおのる救ふよび永遠の榮を得しめんため也 爰に信すべ
 き語わら我儕もし彼と共に苦を受バ彼と共に生べし我儕もし忍ぶと彼と共ニ王と爲べし我儕もし彼を
 知さずと言バ彼も我儕を知さずと言ハわれら信せずと雖も彼ハ誠なり彼ハ己を辯ふこと能ざる地也 〇
 なた彼等をして此事を憶しめ且主の前て彼等を戒め言わ因て争ふと勿らしむべし是を爲す所なく聽
 人をして沈淪せしむ なたんが神を傲さるゝ者ど爲んてを務めた耶所なき工人となりて眞道を
 正しく頑ち教んてを執りてし 要なる益なき教を述べし蓋之をさす者す 不信を進めたり 彼等の
 言ハ脱疽の如く腐爛るべしヒマノヨとビレハ此の如き者の中に在 ければ眞を認りて復生の既に過た
 りといひ欺て數人の信仰を滅すなり 然れども神の置給ひし堅基たてり其上に印わり認してハ主己に屬
 する者を知たまふ云すて主の名を領するハ不義を離るべしと 大なる家の中に金銀の器あるのみな
 らず木と土の器もあり彼り貴きに用ひ此ハ賤きに用ひるなり 人もし此等を離れて己を潔せバ貴きに用

ルカ 〇二六章 〇二二節
 ヨハ 〇一六章 〇一四節
 マ 〇一三章 〇一三節
 マ 〇一三章 〇一四節
 マ 〇一三章 〇一五節
 マ 〇一三章 〇一六節
 マ 〇一三章 〇一七節
 マ 〇一三章 〇一八節
 マ 〇一三章 〇一九節
 マ 〇一三章 〇二〇節
 マ 〇一三章 〇二一節
 マ 〇一三章 〇二二節
 マ 〇一三章 〇二三節
 マ 〇一三章 〇二四節
 マ 〇一三章 〇二五節
 マ 〇一三章 〇二六節
 マ 〇一三章 〇二七節
 マ 〇一三章 〇二八節
 マ 〇一三章 〇二九節
 マ 〇一三章 〇三〇節
 マ 〇一三章 〇三一節
 マ 〇一三章 〇三二節
 マ 〇一三章 〇三三節
 マ 〇一三章 〇三四節
 マ 〇一三章 〇三五節
 マ 〇一三章 〇三六節
 マ 〇一三章 〇三七節
 マ 〇一三章 〇三八節
 マ 〇一三章 〇三九節
 マ 〇一三章 〇四〇節
 マ 〇一三章 〇四一節
 マ 〇一三章 〇四二節
 マ 〇一三章 〇四三節
 マ 〇一三章 〇四四節
 マ 〇一三章 〇四五節
 マ 〇一三章 〇四六節
 マ 〇一三章 〇四七節
 マ 〇一三章 〇四八節
 マ 〇一三章 〇四九節
 マ 〇一三章 〇五〇節
 マ 〇一三章 〇五一節
 マ 〇一三章 〇五二節
 マ 〇一三章 〇五三節
 マ 〇一三章 〇五四節
 マ 〇一三章 〇五五節
 マ 〇一三章 〇五六節
 マ 〇一三章 〇五七節
 マ 〇一三章 〇五八節
 マ 〇一三章 〇五九節
 マ 〇一三章 〇六〇節
 マ 〇一三章 〇六一節
 マ 〇一三章 〇六二節
 マ 〇一三章 〇六三節
 マ 〇一三章 〇六四節
 マ 〇一三章 〇六五節
 マ 〇一三章 〇六六節
 マ 〇一三章 〇六七節
 マ 〇一三章 〇六八節
 マ 〇一三章 〇六九節
 マ 〇一三章 〇七〇節
 マ 〇一三章 〇七一節
 マ 〇一三章 〇七二節
 マ 〇一三章 〇七三節
 マ 〇一三章 〇七四節
 マ 〇一三章 〇七五節
 マ 〇一三章 〇七六節
 マ 〇一三章 〇七七節
 マ 〇一三章 〇七八節
 マ 〇一三章 〇七九節
 マ 〇一三章 〇八〇節
 マ 〇一三章 〇八一節
 マ 〇一三章 〇八二節
 マ 〇一三章 〇八三節
 マ 〇一三章 〇八四節
 マ 〇一三章 〇八五節
 マ 〇一三章 〇八六節
 マ 〇一三章 〇八七節
 マ 〇一三章 〇八八節
 マ 〇一三章 〇八九節
 マ 〇一三章 〇九〇節
 マ 〇一三章 〇九一節
 マ 〇一三章 〇九二節
 マ 〇一三章 〇九三節
 マ 〇一三章 〇九四節
 マ 〇一三章 〇九五節
 マ 〇一三章 〇九六節
 マ 〇一三章 〇九七節
 マ 〇一三章 〇九八節
 マ 〇一三章 〇九九節
 マ 〇一三章 〇一〇〇節

惡となり深して主の用に合ひ諸の善事を作てとを得なり 三 なたん幼少どのの徳を遺て義と信と愛を追求
 又清心にして主を嗣者ど和へ事を追求しむべし 思ふると無學ある辨論を遺べし蓋之より争競の起るを知
 るなり 主の僕ハ争ふべからず和平に凡の八技待の教を善し忍てとをなす 逆六者を志柔和を以て戒む
 べし神あるハハ彼等に悔改むる心を賜て之に眞理を諷しめ給へん 三 なた彼等りの醉さめて惡魔の詛を賜
 出ん蓋惡魔後等をして己が旨を行せしめん爲に之を擒にすべき也
 三 末世に觀の日きたらん爾の事を知ろの日至らば人た 己を愛し貪婪、猜妬、驕傲、詐、不孝、
 恩を忘し不潔、不情、怨を解す、誹謗、怨を縱まじにし、殘刻、善を好まず、友を賣放肆、自負神より樂
 を愛することせせん 彼等ハ敬虔の貌われど實ハ敬虔の徳を棄なんが此の如き者を遺べし 人の家に入
 て思なる女を擄にするハ此の如き者なり 彼の女の罪を重ぬ各様の慾に誘はれ 常々學でも眞理を諷に至
 ること能はず かのハヤンチとヤンツレハがモ一セお敵ひじ如く亦眞理に敵んたり 彼等ハ心の壞たるも
 の信仰の道お放てり棄られたる者なり 然れども猶この上お進てどわらば蓋かの二人の如く彼等の愚なるこ
 ども衆の人に露るべければ也 爾ハ我が教誨、品行、志意、信仰、寛容、愛忍耐、及び我フアラオクイコ
 ニオムアラオクイラわて遇し害と困苦また我が受し害の如何なるかを知主悉く其中より我を救給へり 凡て
 キリストイエスお在て神を敬ひつゝ世を渡らんて志す者ハ善を受べし 惡人と人を欺くハ益惡に進
 む人を惑し亦人お惑さる なたん學て信する所の事を守るべし蓋なんが誰に由て之を學び かつ幼少と
 きより聖書を讀て之を知バなり 聖書ハ爾をしてキリストイエスを信するに因て救を得しめん爲に智慧を
 与ふるもの也 聖書ハみお神の黙示にして教誨と督責また人をして道に歸せしめ文義を學しむるに益お

ルカ 〇二六章 〇二二節
 ヨハ 〇一六章 〇一四節
 マ 〇一三章 〇一三節
 マ 〇一三章 〇一四節
 マ 〇一三章 〇一五節
 マ 〇一三章 〇一六節
 マ 〇一三章 〇一七節
 マ 〇一三章 〇一八節
 マ 〇一三章 〇一九節
 マ 〇一三章 〇二〇節
 マ 〇一三章 〇二一節
 マ 〇一三章 〇二二節
 マ 〇一三章 〇二三節
 マ 〇一三章 〇二四節
 マ 〇一三章 〇二五節
 マ 〇一三章 〇二六節
 マ 〇一三章 〇二七節
 マ 〇一三章 〇二八節
 マ 〇一三章 〇二九節
 マ 〇一三章 〇三〇節
 マ 〇一三章 〇三一節
 マ 〇一三章 〇三二節
 マ 〇一三章 〇三三節
 マ 〇一三章 〇三四節
 マ 〇一三章 〇三五節
 マ 〇一三章 〇三六節
 マ 〇一三章 〇三七節
 マ 〇一三章 〇三八節
 マ 〇一三章 〇三九節
 マ 〇一三章 〇四〇節
 マ 〇一三章 〇四一節
 マ 〇一三章 〇四二節
 マ 〇一三章 〇四三節
 マ 〇一三章 〇四四節
 マ 〇一三章 〇四五節
 マ 〇一三章 〇四六節
 マ 〇一三章 〇四七節
 マ 〇一三章 〇四八節
 マ 〇一三章 〇四九節
 マ 〇一三章 〇五〇節
 マ 〇一三章 〇五一節
 マ 〇一三章 〇五二節
 マ 〇一三章 〇五三節
 マ 〇一三章 〇五四節
 マ 〇一三章 〇五五節
 マ 〇一三章 〇五六節
 マ 〇一三章 〇五七節
 マ 〇一三章 〇五八節
 マ 〇一三章 〇五九節
 マ 〇一三章 〇六〇節
 マ 〇一三章 〇六一節
 マ 〇一三章 〇六二節
 マ 〇一三章 〇六三節
 マ 〇一三章 〇六四節
 マ 〇一三章 〇六五節
 マ 〇一三章 〇六六節
 マ 〇一三章 〇六七節
 マ 〇一三章 〇六八節
 マ 〇一三章 〇六九節
 マ 〇一三章 〇七〇節
 マ 〇一三章 〇七一節
 マ 〇一三章 〇七二節
 マ 〇一三章 〇七三節
 マ 〇一三章 〇七四節
 マ 〇一三章 〇七五節
 マ 〇一三章 〇七六節
 マ 〇一三章 〇七七節
 マ 〇一三章 〇七八節
 マ 〇一三章 〇七九節
 マ 〇一三章 〇八〇節
 マ 〇一三章 〇八一節
 マ 〇一三章 〇八二節
 マ 〇一三章 〇八三節
 マ 〇一三章 〇八四節
 マ 〇一三章 〇八五節
 マ 〇一三章 〇八六節
 マ 〇一三章 〇八七節
 マ 〇一三章 〇八八節
 マ 〇一三章 〇八九節
 マ 〇一三章 〇九〇節
 マ 〇一三章 〇九一節
 マ 〇一三章 〇九二節
 マ 〇一三章 〇九三節
 マ 〇一三章 〇九四節
 マ 〇一三章 〇九五節
 マ 〇一三章 〇九六節
 マ 〇一三章 〇九七節
 マ 〇一三章 〇九八節
 マ 〇一三章 〇九九節
 マ 〇一三章 〇一〇〇節